

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）

平成28年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
TDRを用いた土砂流出観測手法の開発 (研究期間：H28年～H29年)	京都大学 助教 宮田 秀介	A
<p><研究概要></p> <p>山地河川において河川水土砂濃度を連続観測する新たな手法を開発し，室内実験によりその精度と適用範囲を確かめる。さらに現地観測に適用し，山地流域からの浮遊砂流出量の把握と実測値に基づいて浮遊砂鉛直濃度分布を検討する。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究は、TDRセンサを活用した流砂観測を実施することにより、TDRセンサの土砂動態モニタリングへの応用の可能性を定量的に評価し、高濃度浮遊砂量の鉛直分布と河床変動を同時に、かつ連続的に計測可能となるシステムを構築しており、大規模出水時の河床の上昇や浮遊砂濃度の計測への応用が期待できる。</p> <p>今後は、浮遊砂と掃流砂の明確な識別方法や掃流砂成分の検出の可能性、長期観測を見据えたメンテナンス方法について検討を進めていただきたい。</p>		